

コミュニケーションの力を社会のために

株電通 コーポレート計画局 CSR 室
エグゼクティブ・プロジェクト・ディレクター
松代隆子

「コミュニケーションニーズのあるところには、必ず電通の活動領域がある…」

電通の企業理念は、この言葉からはじまる。私たち電通グループは、コミュニケーションの技術を、モノを売ったり、コトをお知らせすることに使ってきた。さまざまなアウトプットが、文化と呼ばれるものに変容したものもある。私たちの仕事は、社会全体を深く理解し、コミュニケーションの力で、世の中に新しい価値を生み出していくことが使命である。

ビジネスの領域に限らずとも、コミュニケーションによって社会的な問題が解決したり、より円滑に運ぶことがあるのなら、社会のために、私たちの経験やスキルを活かす仕事もあるはずである。

電通グループは、法律順守、労働安全、環境保全、人権擁護などとともに、「コミュニケーションの力を社会のために」を基本方針として様々な社会貢献活動に取り組んでいる。ここでは、海外との関係が深い2つのプロジェクトをご紹介します。

ユネスコ世界寺子屋運動くるりんば

このプロジェクトは、電通のクリエイターが描いた絵本「くるりんば」を活用して、(社)日本ユネスコ協会連盟が、アジア各国で進めている「世界寺子屋運動」に協力する取り組みである。

世界には、勉強をしたくても学ぶ機会のない人が約9億人いるといわれる。世界寺子屋運動は、地域に学びの場「寺子屋」をつくり、学校に行けない子どもたちや女性の識字教育、職業教育など

セルフヘルプ（自助）を支援する活動である。電通グループは、「くるりんば」のチャリティ展覧会や子どもたちへのワークショップを国内やアジアの寺子屋で開催し、くるりんばの「ものの見方はひとつじゃないよ」というメッセージとともに寺子屋運動の価値を広く伝え、募金活動をおこなっている。その募金によって、日本ユネスコ協会連盟はインドに2つの寺子屋を建てた。

また、2005年からは、(財)日本サッカー協会（JFA）もこの活動の仲間に加わって下さり、「Everyone Plays, Everyone Learns」を合言葉に、「アジアの子どもたちにサッカーボールを届けるプロジェクト」へ広がった。毎年、約3500個のボールをアジア30カ国余の子どもたちに届けており、北澤豪氏（元日本代表）にもボランティアでサッカークリニックをお願いしている。去年は、贈呈式をブータン王国の他、電通フィリピンと協力してマニラでおこなった。

社員の作った「くるりんば」という一冊の絵本



カンボジア寺子屋の子どもたち



カンボジアプノンベン国立競技場で開催したサッカー・クリニックに参加した子どもたち

から、ボランティアで参加する多数のグループ各社社員、国内外のユネスコ関係の方々、サッカー関係の方々へコミュニケーションの輪が広がっている。

中国広告人材育成基金プロジェクト

日中プロジェクトは、1996年、電通創立95周年記念事業としてスタートした。当時の成田豊社長（現最高顧問）が、揺籃期にあった中国広告界の将来について相談をうけたことから、プロジェクトを提案し、中国教育部（文部科学省に相当）の全面的な協力を得て実現した。

当初5年間の予定で、北京と上海の6大学へ電通の第一線で働く社員を派遣し、日本の広告ビジネスの実務を紹介する「電通広告講座」や、若手教員を3～6カ月間東京本社に招き、座学と職場でのOJTを体験する「電通留学研修」などをおこなったが、その後も3年間継続した。この間、340名の電通社員が中国の大学で講義し、約4000名の学生が受講した。また、本社で研修した大学教員は90余名、延べ1000名の社員が研修に協力した。

大きな規模の活動ではなかったが、電通社員が自らの体験や知識を直接伝えたこと、広告主のご協力によって生きた事例を使えたこと、すべての講義は中国語の堪能な社員が通訳したこと、社員と受講生や研修員の間に友情が深まったことな

ど、地道な草の根活動は、着実な成果として、中国の広告界に波紋のように広がっていったようだ。大学で電通の講義を受けた学生は、中国各地の広告会社、メディア、大学の広告教育の担い手に育っており、東京に留学研修した教員の方々は、中国広告学界のリーダーとして活躍されている。

プロジェクト10年の節目に、中国教育部より、電通は「教育支援特別貢献賞」を、成田最高顧問は「教育記念支援章」という名誉を授かった。そして、現在は、2005年に教育部と立ち上げた「中国広告人材育成基金」のもと、活動の場を中国全土の広告学科を広げ、広告教育に関する委託研究などプログラムも充実してきた。

本年8月に長春、深圳で開催したセミナーには、全国253大学から450名以上の広告学科の教員が参加したが、これは中国で広告学科を設置している大学数とほぼ一致していると聞き、これまでに振り返ると感慨深いものがあった。



「電通留学研修」で広告実務を学ぶ中国大学の教員

当プロジェクトは、中国古典『礼記』にある「教学相長ずー教えることは学ぶことであり、学ぶことは教えることである」という精神で始まった。これからも、常に初心を忘れることなく日中の友好を深めていきたいと願っている。 ■

◆株電通 社会貢献活動

http://www.dentsu.co.jp/profile/csr/report/cont_npo.html